

地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- 稲作が中心の平地農業地域
- ほ場の大区画化で農地の集積が一定程度進むが、認定農業者の約8割が60歳以上と高齢化が進展。
- ほ場の分散が課題。集約化による効率的な農地利用を図る必要がある地区。

【支援内容・背景】

- 高齢化による離農が進む中、農地を引き受ける担い手の経営面積の拡大が求められており、担い手の生産体制の強化が必要。
- 助成対象者は水稻とすいかを複合経営する大規模法人であり、さらなる経営面積拡大に取り組む。また、他の農業法人と協同して米の輸出にも取り組んでおり、当地区における経営力強化の取組モデルとして支援。



助成対象者「(農)めぶき」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 平成21年 親元就農
- 令和4年 家族経営を法人化
経営改善計画の認定

《事業活用の背景》

○ 経営面積の拡大を図るには、作業の効率化が必要。乾燥調製施設を新築し、機械設備を導入することで刈り取り作業も効率化が図られ、地域の高齢農家や離農者の受け手となり経営力強化につながる。

【事業実施時の状況】
〈R3年度〉

- 付加価値額 15百万円
- 経営面積 29.81ha
- 輸出量 10.2t
- 輸出額 1.7百万円

《事業による整備内容》

- 乾燥調製機械一式
(乾燥機3台、粳摺機2台
粗選機1台ほか)
事業費 19,897千円
(国費 9,044千円)
- 乾燥調製施設1棟
(木造2階建)
事業費 32,560千円
(国費 14,800千円)



【現在の経営状況】
〈R6年度〉

- 付加価値額 28百万円(187%)
- 経営面積 48.32ha(162%)
- 輸出量 11.2t(110%)
- 輸出額 2.6百万円(153%)

事業の
効果

《対象者》 効率的な作業体系の確立により経営面積が拡大し、さらなる輸出用米の取組で付加価値額が向上。
《地 区》 農業従事者が減少する中で、水稻の生産体制が強化され、地域農業を牽引する経営モデルが確立。